

三重県経済の動向（2025年9月） No. 576

【現在の景気】 足踏み状態となっている（※25年6月～8月の指標より（一部除く））

生産は前月比、前年比とも低下。輸出も足踏み状態。雇用は持ち直しの動きに足踏み。個人消費は持ち直し基調も一部では節約志向も。県内企業の25年度上期の業況感は3期連続マイナス。

<当月のポイント>

- ・生産指数（7月）は前月比、前年比とも低下。電子、化学などで前月比低下。輸送は上昇。
- ・常用雇用指数（6月）は高水準も前年比2か月連続で低下。人員不足感の高水準も前期比低下。
- ・百貨店・スーパー、ドラッグストア、コンビニの販売額（7月）は前年比増加。乗用車販売（8月）は2か月連続の減少。家計消費（7月）は7か月ぶりの減少。

【当面の見通し】 足踏み状態が続く

米国の関税措置について相互関税や自動車・同部品に対する追加関税の履行に伴い、コスト増やサプライチェーン見直し、海外景気減速など下押し圧力を懸念。個人消費は所得環境改善も食料品等の物価上昇の継続の影響、国勢情勢等の影響に留意が必要。

項目	基調判断			変化方向	頁
	【前々月】	【前月】	【今月】		
現在の景気 （総合判断）	足踏み状態となっている	足踏み状態となっている	足踏み状態となっている	→	—
1. 企業の景況感	足元は足踏み、先行きは持ち直しの動き	足元は足踏み、先行きは持ち直しの動き	足元は足踏み、先行きは持ち直しの動き	→	2
2. 生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに足踏みがみられる	↘	3
3. 輸出	足踏み状態となっている	足踏み状態となっている	足踏み状態となっている	→	3
4. 設備投資	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	→	4
5. 企業倒産	横ばい圏内となっている	横ばい圏内となっている	横ばい圏内となっている	→	4
6. 雇用	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しに足踏みがみられる	→	5
7. 賃金	持ち直している	持ち直している	持ち直している	→	6
8. 個人消費	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	→	6
9. 住宅投資	弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	→	7
10. 公共投資	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	→	8

※1 網掛けは前月より基調判断を変更したものの。変化方向は前月の基調判断に対する今月の基調判断の修正方向。

※2 採用指標は作成時点で発表済みの最新値を使用している。

<担当> HRI 株式会社百五総合研究所 地域共創事業部 谷ノ上、片山 TEL 059-228-9105

1. 景気全般

(1) 県内企業の景況感

【現状】 <足元は足踏み、先行きは持ち直しの動き>

○当社景況調査（7月実施）では、25年度上期の業況判断BSI（変化方向）は $\Delta 7.0$ と前期比ほぼ横ばいで3期連続のマイナス。業況判断DI（水準）では7-9月が+18.6に上昇。

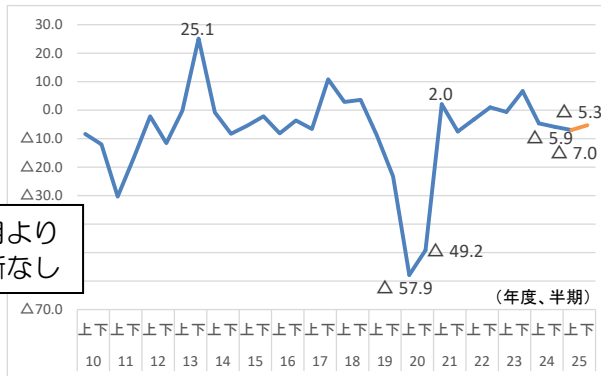
○法人企業景気予測調査（8月実施）では、7-9月期の景況判断BSIは、 $\Delta 8.7\%$ ポイントの「下降」超。

【見通し】

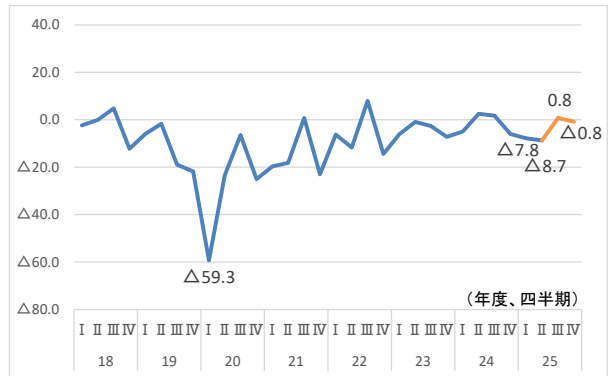
○当社景況調査（7月実施）では、25年度下期の業況判断BSIは $\Delta 5.3$ とほぼ横ばいの見通し。業況判断DIは10-12月・26年1-3月（+17.0、+16.6）はほぼ横ばいの見通し。

○法人企業景気予測調査では、10-12月期の景況判断BSIは、+0.8%ポイントの「上昇」超。

■業況判断BSI（当社景況調査、7月実施）



■景況判断BSI（法人企業景気予測調査、8月実施）



資料：当社「景況調査」（25年7月、474社）、東海財務局津財務事務所「法人企業景気予測調査」（25年8月、127社）

(2) 景気動向指数

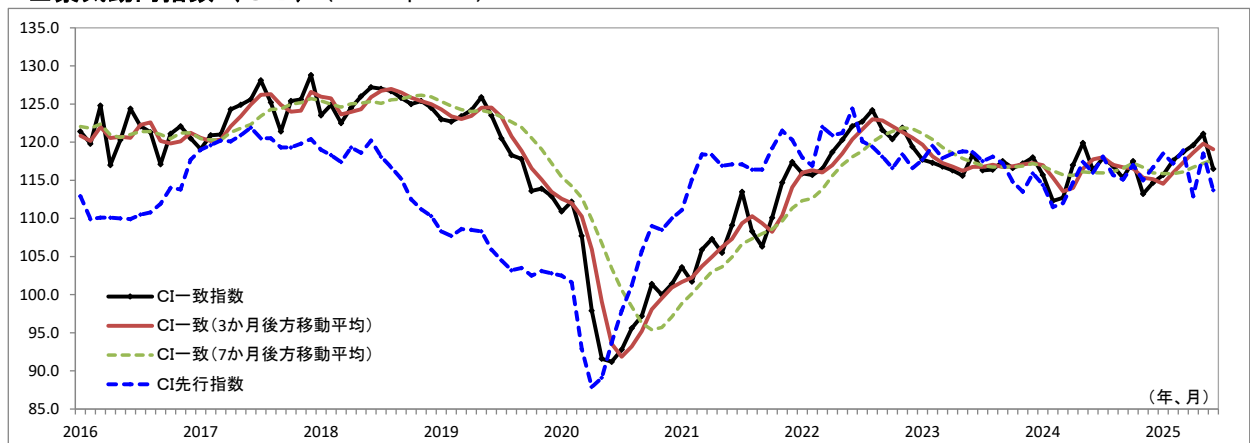
【現状】

○6月の景気動向指数（CI）一致指数は、116.5で前月差 $\Delta 4.6$ ポイント。3か月後方移動平均（ $\Delta 0.73$ ポイント）は5か月ぶりの低下、7か月後方移動平均（+0.47ポイント）は4か月連続の上昇となった。三重県が内閣府の判断基準に準じて判断した基調では、「上方への局面変化」としている。

【見通し】

○6月の景気動向指数（CI）先行指数は、113.7で前月差 $\Delta 4.8$ ポイント。3か月後方移動平均（ $\Delta 1.74$ ポイント）は2か月ぶりの低下、7か月後方移動平均（ $\Delta 0.18$ ポイント）は2か月ぶりの低下となった。

■景気動向指数（CI）（2020年=100）



※複数の指標の動きを統合して単一指標で景気を把握しようとするものであり、すべての経済指標を総合的に勘案して景気を捉えようとするものではないことに留意する。「3か月後方移動平均」は足下の基調変化を表し、「7か月後方移動平均」は定着しつつある基調を表す。

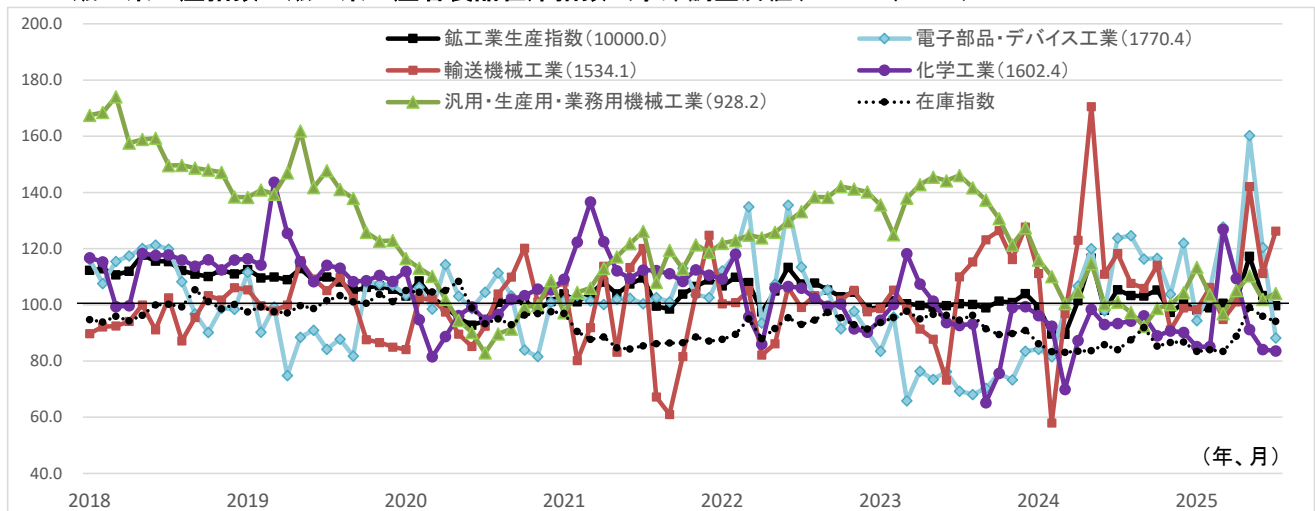
資料：三重県「三重県景気動向指数（CI）」

2. 生産

【現状】 <持ち直しの動きに足踏みがみられる>

- 7月の鉱工業生産指数（季調済）は99.7で、前月比は△3.5%と2か月連続の低下、原数値は101.6で前年比△5.4%と3か月ぶりの低下となった。
- 生産指数を業種別にみると、電子部品・デバイスは、前月比は△26.7%と2か月連続の低下、前年比では△28.7%と17か月ぶりの低下となった。化学工業は、前月比4か月連続の低下、前年比では△10.5%と3か月連続の低下となった。一方、輸送機械は、前月比は+13.6%と2か月ぶりの上昇、前年比では+6.8%と2か月連続の上昇となった。汎用・生産用・業務用機械は、前月比2か月ぶりの上昇、前年比では2か月連続の上昇。原材料である生産財は、前月比2か月連続の低下、前年比では16か月ぶりの低下となった。

■ 鉱工業生産指数・鉱工業生産者製品在庫指数（季節調整済値、2020年=100）



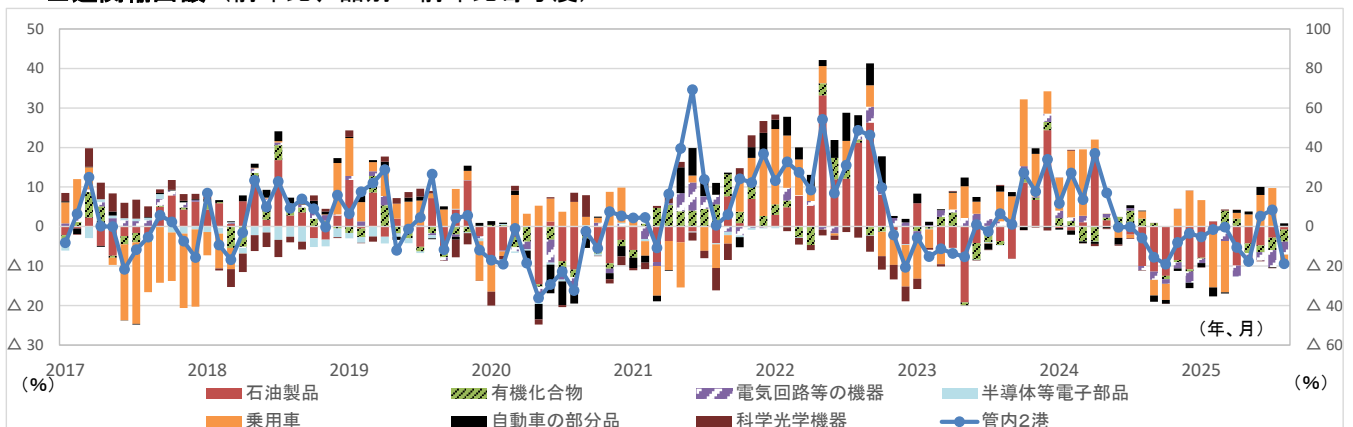
※資料：三重県「三重県鉱工業指数」

3. 輸出

【現状】 <足踏み状態となっている>

- 8月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）+津港）の通関輸出額（速報）は、前年比△18.8%と3か月ぶりの減少、主要港である四日市港は△14.0%と13か月連続の減少となった。
- 四日市港の輸出主要品別にみると、プラスチック、自動車の部分品などが増加したものの、電気回路等の機器、有機化合物、乗用車、ゴム製品、石油製品、一般機械などが減少に寄与した。

■ 通関輸出額（前年比、品別：前年比寄与度）



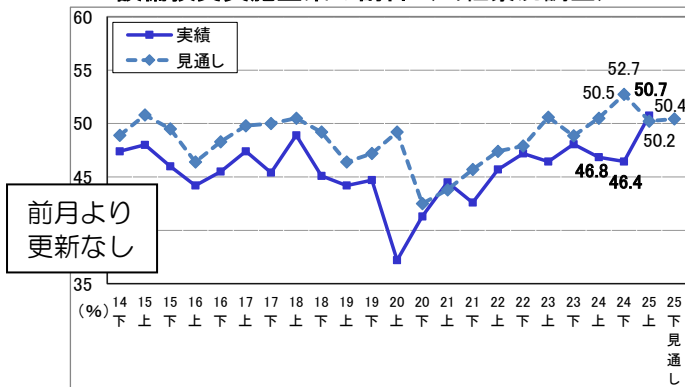
※折れ線グラフは県内2港の前年比。棒グラフは四日市港の主要品目の前年比増減寄与度。
資料：四日市税関支署「管内貿易概況」

4. 設備投資

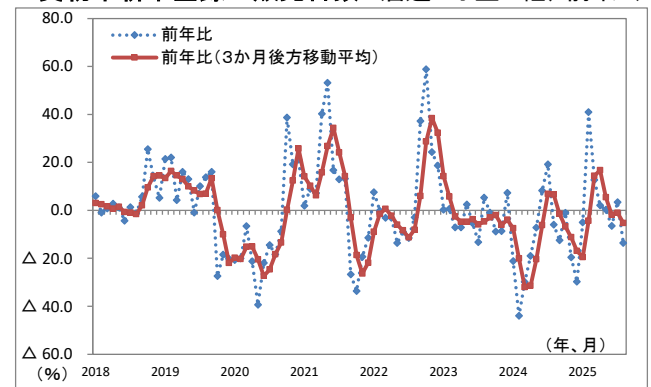
【現状】 <持ち直しの動きがみられる>

- 当社景況調査（7月実施）では、25年度上期の設備投資実施企業は50.7%と高水準を維持。前回調査の今期見通し（50.2%）を上回った。25年度下期の設備投資実施（見通し）企業は50.4%とほぼ横ばいの見通し。法人企業景気予測調査（8月実施）では、25年度投資額は前年度比+17.7%の増加見込み。
- 8月の貨物車新車登録・販売台数（普通+小型+軽）は前年比△13.7%となり、2か月ぶりの減少。普通貨物（△14.7%）は5か月連続の減少、小型貨物（△1.3%）は3か月連続の減少、軽貨物（△18.2%）は2か月ぶりの減少となった。
- 7月の建築物着工床面積（非居住用）は前年比△49.4%、3か月移動平均では4か月連続の増加。
- 3月の地域別民間企業設備投資総合指数は、前年比4か月連続の上昇。

■設備投資実施企業の割合（当社景況調査）

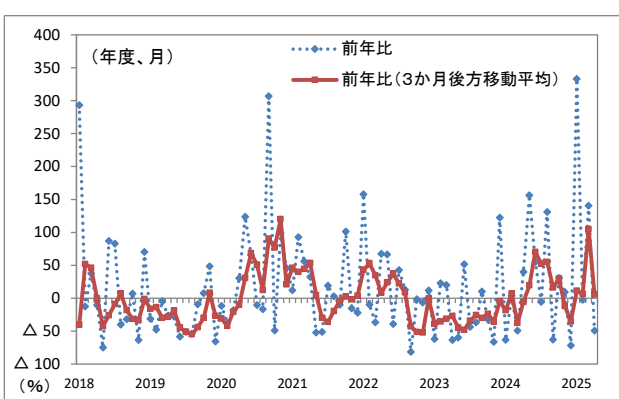


■貨物車新車登録・販売台数（普通・小型・軽、前年比）

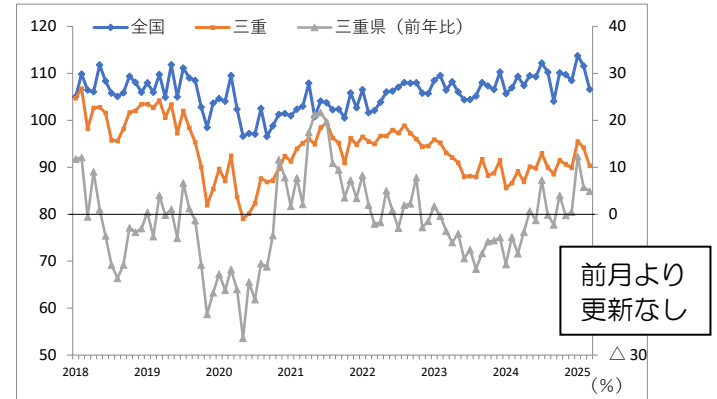


※資料：当社「景況調査」（投資額 500 万円以上）／三重県自動車販売協会、三重県軽自動車協会

■民間非居住用建築物着工床面積（前年比）



■地域別民間企業設備投資総合指数（季節調整済値）



※地域別民間企業設備投資総合指数の三重県は参考値。前年比は原数値による。公表は四半期ごと。
 ※資料：国土交通省「建築物着工統計」／内閣府「地域別支出総合指数」

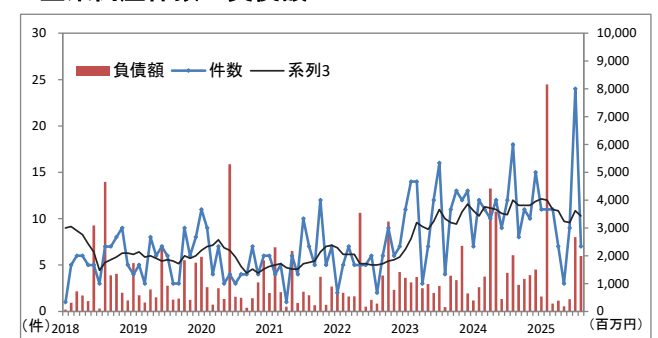
5. 企業倒産

【現状】 <横ばい圏内となっている>

- 8月の企業倒産件数は7件（前年差△11件）、負債額は19億88百万円（前年差△36百万円）となった。25年1月からの累計では、件数は前年比△8.8%、負債額は+1.9%となった。

※負債額 1,000 万円以上 資料：(株)東京商工リサーチ

■企業倒産件数・負債額

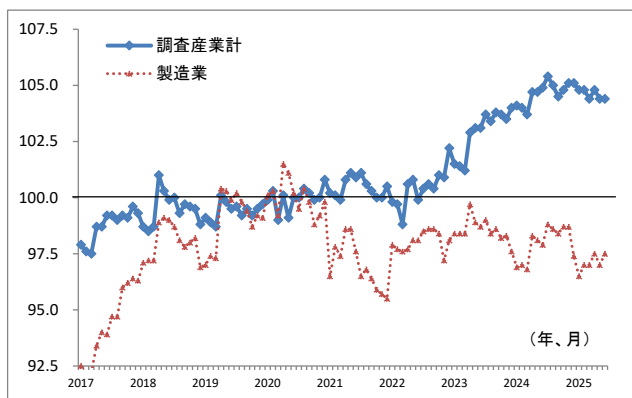


6. 雇用

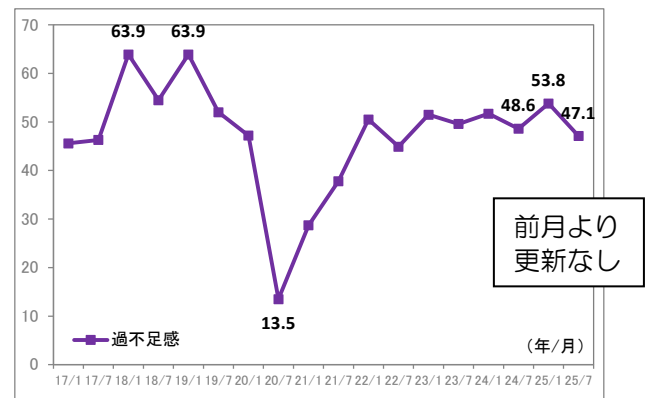
【現状】 <持ち直しに足踏みがみられる>

- 6月の常用雇用指数は104.4で、前年比△0.5%と2か月連続の低下となった。製造業は97.5で、前年比△0.4%と3か月連続の低下なった。
- 当社景況調査（7月実施）では、53.7%の企業が人員は「不足・やや不足」と回答し、過不足感>+47.1と高水準も前期比では低下。法人企業景気予測調査（8月実施）では、9月末の従業員数判断BSIが27.6ポイントの「不足気味」超も、前回3月末に比べ「不足気味」超幅は縮小。
- ハローワークにおける7月の有効求人倍率（季調済）は1.16倍で、前月比+0.03ポイントとなった。有効求人数（原数値）は前年比△0.8%で29か月連続の減少、有効求職者数（原数値）は△0.3%で5か月連続の減少。新規求人倍率（季調済）は2.12倍となり、前月比+0.32ポイントと3か月ぶりの上昇となった。
- 雇用保険の基本手当受給者実人員（7月）は、前年比+5.1%で8か月連続の増加となった。
- 求人情報・転職サイトdodaによると、中部地域の8月の転職求人倍率は2.39倍と、高水準ながらも前年を大きく下回った。

■常用雇用指数（2020年=100）



■人員の過不足感（不足割合－過剰割合）

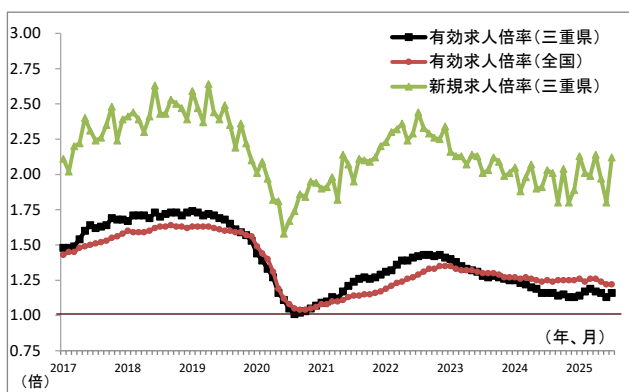


※常用雇用指数は、雇われて就業している者の数（正社員+パートタイム労働者）を指数化したもの。2024年1月分公表時に、ベンチマーク更新に伴い過去に遡って改訂されている。

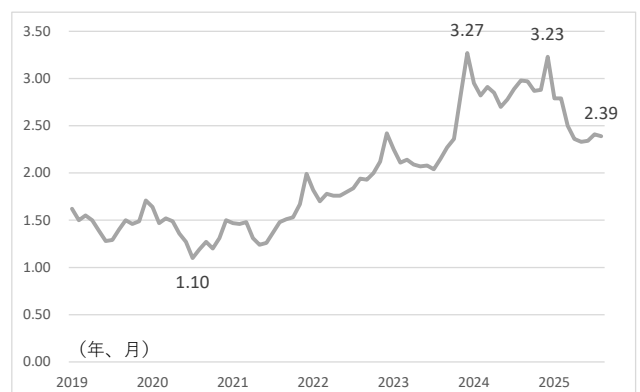
※人員の過不足感 = (不足+やや不足の割合) - (過剰+やや過剰の割合)。各年1月と7月。

資料：三重県「毎月勤労統計調査」、当社「景況調査」

■有効求人倍率・新規求人倍率（季節調整済値）



■doda 転職求人倍率（中部地域）



※求人倍率は、新規学卒者を除きパートタイム労働者を含む。公共職業安定所への登録分。

※doda 転職求人倍率は、dodaの会員登録者（転職希望者）1名に対して、中途採用の求人が何件あるかを算出した値。

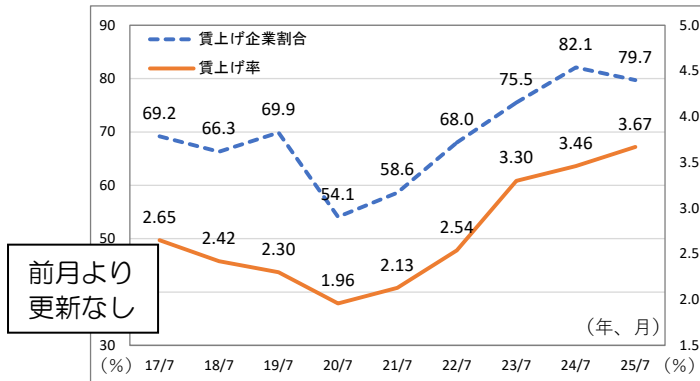
資料：三重労働局「一般職業紹介状況」、パーソルキャリア(株)「doda 転職求人倍率データ」より当社作成

7. 賃金

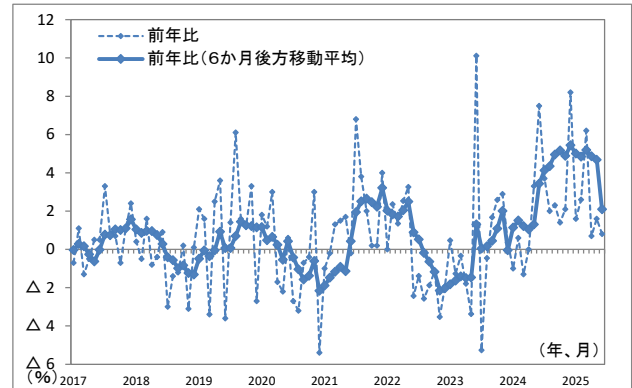
【現状】<持ち直している>

- 当社景況調査（7月実施）では、25年4月以降に賃金を「引き上げた」企業は79.7%と高水準。賃上げ率は3.67%と、3年連続の3%超え。
- 6月の名目賃金指数（現金給与総額）は、前年比+0.8%と14か月連続の上昇となった。

■賃上げ企業割合・賃上げ率（当年度）



■名目賃金指数（現金給与総額、前年比）



※賃上げ企業割合は、当年度に賞与等を含む賃金を引き上げた企業の割合。各年度7月時点。

※事業所規模5人以上、2020年=100。現金給与総額は、「きまって支給する給与」と「特別に支払われた給与」の合計。

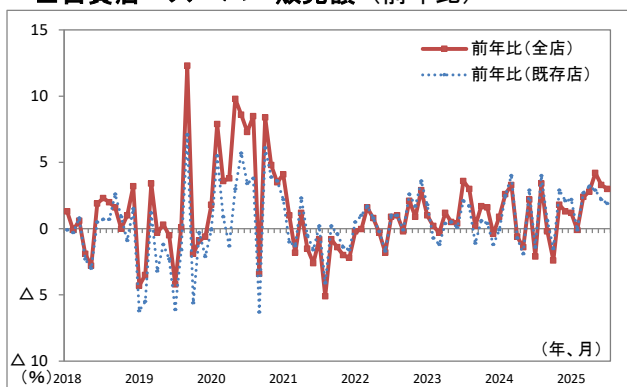
資料：賃上げ企業割合と賃上げ率は当社「景況調査」。賃金指数は三重県「毎月勤労統計調査」。

8. 個人消費

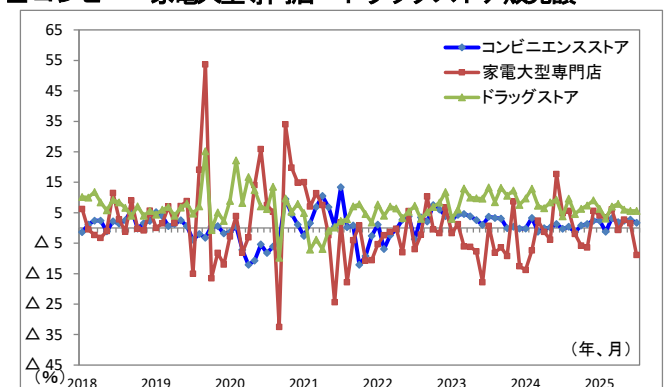
【現状】<持ち直しの動きがみられる>

- 7月の百貨店・スーパー販売額は、全店（前年比+3.0%）、既存店（+1.9%）とも5か月連続の増加。
- 7月のドラッグストア販売額（+5.6%）は前年比50か月連続の増加、コンビニエンスストア販売額（+1.7%）は5か月連続の増加となったが、家電大型専門店（△8.9%）は3か月ぶりの減少、ホームセンター販売額（△0.6%）は2か月ぶりの減少となった。
- 8月の乗用車新車登録・販売台数（普通+小型+軽）（△4.1%）は前年比2か月連続の減少。軽（+0.7%）は2か月ぶりの増加となったが、普通（△7.6%）は6か月連続の減少、小型（△6.1%）と8か月ぶりの減少となった。
- 7月の家計消費支出（津市・勤労者世帯）（△4.2%）は前年比7か月ぶりの減少。
- 8月の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合、津市）は、前年比+2.4%の上昇となった。
- 当社景況調査（7月実施）では、節約意識が高まった人の割合が83.7%と24年11月(78.7%)より上昇。

■百貨店・スーパー販売額（前年比）



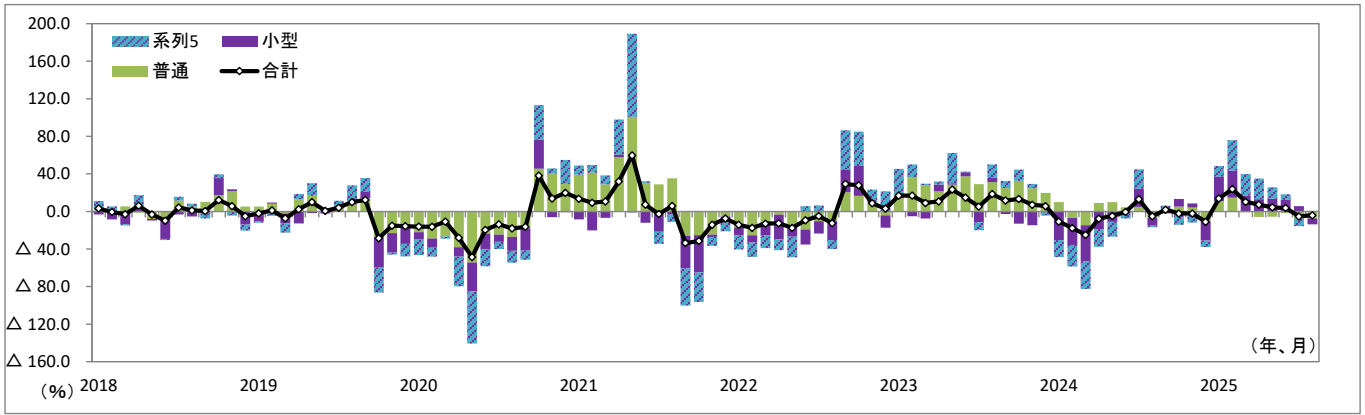
■コンビニ・家電大型専門店・ドラッグストア販売額



※既存店とは、調査対象事業所の定義変更及び異動(開店、廃業)があった場合、当月及び前年同月とも調査の対象となった事業所をいい、前年同月比の算出はその事業所のみで行っている。

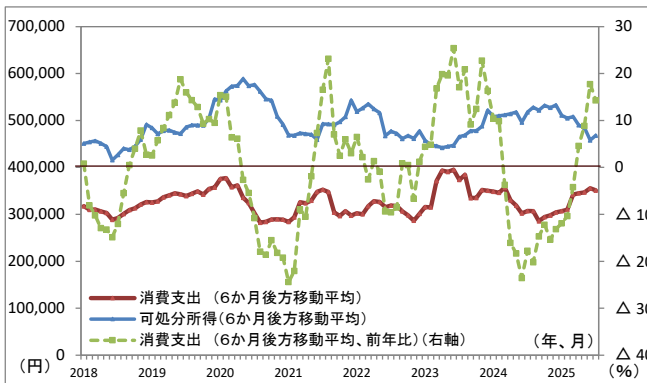
資料：経済産業省「商業動態統計」

■乗用車新車登録・販売台数（普通・小型・軽乗用車の合計、前年比）

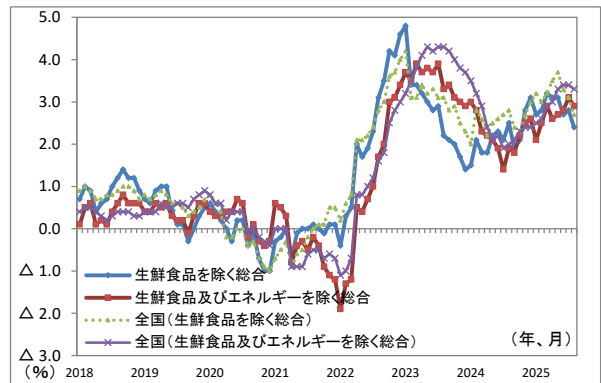


資料：三重県自動車販売協会、三重県軽自動車協会

■勤労者世帯の消費支出・可処分所得（津市）



■消費者物価指数（津市・全国、前年比）



※消費支出・可処分所得は、二人以上の世帯のうち勤労者世帯の1世帯あたりの月平均。

※津市の調査結果は、標本世帯数が少ないため、標本誤差が大きいことに留意。

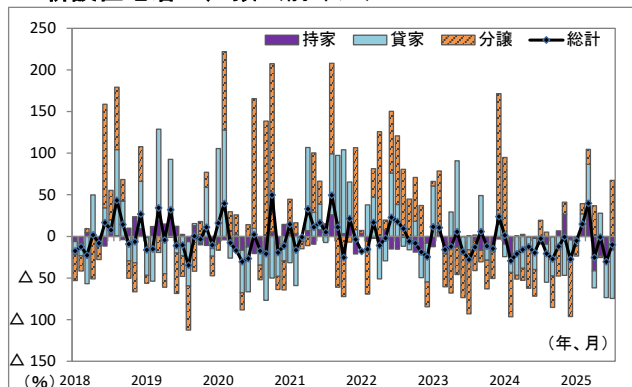
資料：三重県・総務省統計局「家計調査」、総務省「消費者物価指数」

9. 住宅投資

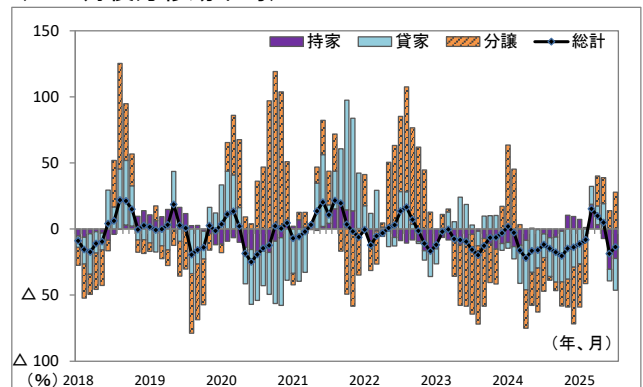
【現状】＜弱含んでいる＞

○7月の新設住宅着工戸数は、前年比 $\Delta 10.0\%$ で4か月連続の減少となった。3か月後方移動平均では $\Delta 13.6\%$ と2か月連続の減少となった。分譲（ $+67.4\%$ ）は3か月ぶりの増加となったが、持家（ $\Delta 16.3\%$ ）は4か月連続の減少、貸家（ $\Delta 58.3\%$ ）は2か月連続の減少となった。床面積（ $\Delta 15.8\%$ ）では4か月連続の減少となった。

■新設住宅着工戸数（前年比）



（3か月後方移動平均）



※総計は、持家、貸家、分譲、給与住宅の合計

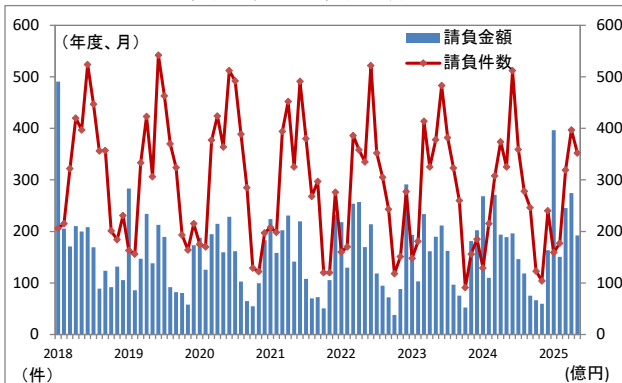
資料：国土交通省「建築着工統計調査」

10. 公共投資

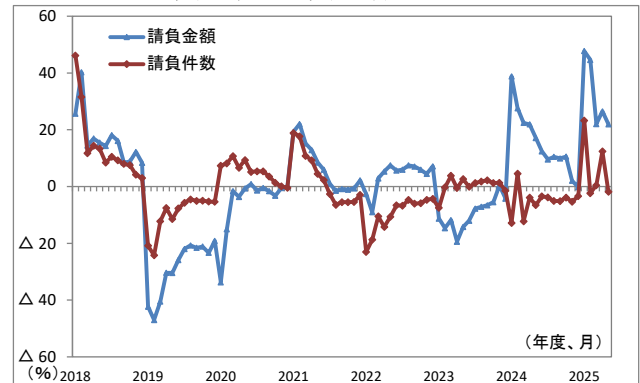
【現状】＜持ち直しの動きがみられる＞

- 8月の公共工事請負件数は前年比+8.3%の増加、請負金額は+1.7%の増加となった。25年4月からの年度累計請負金額では、前年比+22.0%の増加となった。
- 年度累計請負金額について、発注者別にみると、中日本高速道路株(△53.7%)、県農林水産部(△1.5%)、日本下水道事業団(△5.5%)などが減少したが、市(+22.4%)、町(+88.9%)、県土整備部(+34.7%)などは増加した。工事場所別では、鈴鹿市、桑名市、南伊勢町などが減少したが、津市、四日市市、川越町などは増加した。

■公共工事請負件数・請負金額



■公共工事請負件数・請負金額 (年度累計・前年比)



※前払金保証取扱高(工事場所ベース:工事場所が三重県であったもの)

※発注者:国、独立行政法人、県、市町、地方公社、その他

資料:東日本建設業保証(株)

<トピックス>

- ◆ 伊賀市上野丸之内に「伊賀流忍者体験施設～万川集海～」が8月27日オープン。同施設は、伊賀市がPFI方式で進めてきた「にぎわい忍者回廊整備事業」の一環で、7月に開業した複合施設「旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE」とともににぎわいづくりが期待されている。施設では、音声ガイドで忍術書「万川集海」から忍びの教を学ぶ体験と、忍び装束姿で45種類の忍術から伊賀流忍者の体験が可能。修学旅行等を含めた国内観光客に加え外国人観光客の誘致により、年間12万人の利用を目指すとしている。
- ◆ シャープ(株)(大阪)は8月29日、亀山市にあるシャープ亀山北工場の土地及び建物等の売買契約を(株)トピア(鈴鹿)と締結したと発表。譲渡価額は12億円。本譲渡により財務改善を図り、ブランド事業を中心とした事業構造への転換を促進する狙い。今年3月と7月には三重事業所 第1工場と第2工場の売買契約をアオイ電子と締結しており、今年5月には亀山第2工場を26年8月までに親会社である鴻海精密工業(台湾)に譲渡する方針を示している。
- ◆ 三重県は9月17日、今年の夏休み期間中の主要観光施設(24施設)の観光入込客数を発表。7/19～8/31の44日間で延べ523万人となった。24施設における1日あたりの入込客数は11.9万人と、2024年比で+8.7%。2019年比では、比較可能な21施設で△9.3%となった。
- ◆ 三重県は9月17日、令和7年三重県地価調査結果を発表。7月1日現在の住宅地の基準地価の対前年平均変動率は△0.2%(前年△0.3%)で33年連続の下落となったが、下落幅は4年連続で縮小し、上昇地点は前年の64地点から69地点に増加。商業地の対前年平均変動率は+0.5%(同+0.4%)で2年連続の上昇となり、上昇地点は前年の41地点から45地点に増加。

三重県主要経済指標

Table with columns: 景気動向指数C I (先行), 景気動向指数C I (一致), 業況判断BSI (年度半年期), 業況判断BSI (年度四半期), 鉱工業生産指数, 鉱工業在庫指数. Rows: 2022年, 2023年, 2024年, 23年11月, 24年1月, etc.

Table with columns: 輸出 (億円), 輸入 (億円), 貨物車販売 (普通+小型, 軽), 非居住用建築物着工床面積 (㎡), 企業倒産 (件数, 負債額). Rows: 2022年, 2023年, 2024年, 23年11月, 24年1月, etc.

Table with columns: 常用雇用指数, 調査産業計 (製造業), 有効求人倍率, 求人数, 求職者数, 新規求人倍率, 名目賃金指数. Rows: 2022年, 2023年, 2024年, 23年11月, 24年1月, etc.

*1: 月別の数値は季節調整済値 *2: 年数値については原指数, 前年比 *3: 2017年1月から、四日市港には四日市税関支署尾鷲出張所の通関分を含む。 *4: 負債額1千万円以上 *5: 事業所規模5人以上 *6: 年数値は年間の月平均 *7: 既存店とは当月及び前年同月とも調査対象となった事業所 *8: 前年(度、同期、同月)比増減率はギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算している *9: 「家計調査」により津市において調査した世帯(単身世帯を除く)の1か月間の家計消費の状況(平均)。標本数が少ないため標本誤差が大きく、前年や全国の結果との比較の際には注意が必要。 *10: 官公庁工事請負額の年数値は年度計

三重県主要経済指標

	所定外労働時間指数 *5				百貨店・スーパー販売額		乗用車販売				消費支出 *9	
	調査産業計		製造業		*7 *8 (百万円)	前年比 (既存店)	普通+小型(新車登録台数)		軽(新車販売台数)		(津市、二人以上の世帯のうち 勤労者世帯)	
	(2020年=100)	前年比 *11	(2020年=100)	前年比 *11			(台)	前年比	(台)	前年比	(円)	前年比
2022年	109.1	0.5	124.9	4.2	308,628	1.0	42,059	△ 7.6	28,780	0.2	308,219	△ 4.5
2023年	96.3	△ 11.8	111.8	△ 10.5	311,883	0.3	48,492	15.3	31,028	7.8	372,845	21.0
2024年	98.4	0.3	108.9	△ 3.7	—	1.1	46,394	△ 4.3	27,595	△ 11.1	303,304	△ 18.7
23年11月	96.2	△ 9.8	118.9	△ 6.6	25,832	0.4	4,040	9.1	2,673	4.5	357,713	30.4
12月	93.3	△ 12.6	111.4	△ 8.7	30,556	△ 1.2	3,827	12.9	2,391	△ 4.1	364,779	5.7
24年1月	92.3	△ 15.8	104.5	△ 4.8	27,002	△ 0.1	3,615	△ 5.2	2,379	△ 18.1	279,701	△ 33.7
2月	93.3	△ 5.8	106.1	△ 10.8	24,472	2.5	3,807	△ 14.2	2,325	△ 23.0	327,768	18.6
3月	99.0	△ 5.5	110.6	△ 1.3	25,629	4.0	4,851	△ 22.3	2,472	△ 29.6	383,931	△ 37.6
4月	100.0	△ 1.0	113.6	2.0	24,722	△ 0.7	3,398	△ 0.4	1,824	△ 18.8	266,437	△ 37.6
5月	89.4	△ 3.1	100.8	△ 2.1	25,292	△ 1.9	3,224	2.8	1,826	△ 15.8	290,563	12.9
6月	98.1	3.0	106.8	△ 4.1	25,599	2.9	3,954	2.4	2,202	△ 5.1	264,947	△ 29.2
7月	102.9	6.0	110.6	△ 4.6	26,204	△ 1.4	4,259	9.0	2,619	20.5	309,537	6.4
8月	91.3	0.0	102.3	△ 6.8	27,935	4.0	3,221	△ 7.3	2,062	△ 1.7	326,660	△ 4.8
9月	101.0	5.0	109.1	△ 6.5	24,727	0.6	4,310	△ 0.7	2,967	6.0	254,631	△ 19.4
10月	107.7	10.9	114.4	△ 0.7	25,350	△ 1.5	4,233	6.1	2,341	△ 14.2	319,472	△ 25.7
11月	104.8	6.8	116.7	△ 3.2	26,301	2.9	4,210	4.2	2,355	△ 11.9	311,963	△ 12.8
12月	101.0	6.1	111.4	△ 1.3	30,950	2.1	3,312	△ 13.5	2,223	△ 7.0	304,039	△ 16.7
25年1月	95.2	3.1	103.8	△ 0.7	27,313	2.2	4,167	15.3	2,650	11.4	325,085	16.2
2月	101.0	8.3	119.7	12.8	24,445	△ 0.1	4,514	18.6	3,082	32.6	345,750	5.5
3月	104.8	5.9	123.5	11.7	26,250	2.7	5,032	3.7	3,038	22.9	447,614	16.6
4月	104.8	4.8	117.4	3.3	25,423	3.2	3,379	△ 0.6	2,224	21.9	336,746	26.4
5月	96.2	7.6	103.8	3.0	26,345	2.9	3,227	0.1	2,048	12.2	322,745	11.1
6月	103.8	5.8	116.7	9.3	26,437	2.2	4,049	2.4	2,333	5.9	357,241	34.8
7月	—	—	—	—	26,996	1.9	4,101	△ 3.7	2,413	△ 7.9	296,490	△ 4.2
8月	—	—	—	—	—	—	2,992	△ 7.1	2,076	0.7	—	—
資料出所	三重県政策企画部統計課				経済産業省		三重県自動車販売協会		三重県軽自動車協会		総務省統計局	

	新設住宅着工戸数		公共工事請負金額		消費者物価指数			
	(戸)		(億円)		(津市・生鮮食品を除く総合)		(津市・生鮮食品及び エネルギーを除く総合)	
	前年比		*10	前年度比	(2020年=100)	前年比	(2020年=100)	前年比
2022年	9,912	△ 2.9	1,945	7.1	102.2	2.3	100.6	0.9
2023年	9,224	△ 6.9	1,862	△ 4.2	105.0	2.7	104.1	3.5
2024年	7,751	△ 16.0	1,858	△ 0.2	107.4	2.2	106.4	2.2
23年11月	638	△ 14.7	96	1.9	105.7	1.7	105.1	3.0
12月	720	23.9	75	4.2	105.8	1.4	105.2	2.9
24年1月	757	1.3	52	38.7	106.0	1.5	105.4	3.0
2月	501	△ 29.2	181	105.0	106.1	2.1	105.4	2.8
3月	635	△ 20.9	202	△ 30.6	106.2	1.8	105.5	2.3
4月	610	△ 15.9	268	38.8	106.8	1.8	106.1	2.2
5月	674	△ 12.2	110	6.5	107.0	2.2	106.0	2.1
6月	675	△ 19.5	271	15.9	107.2	2.3	105.9	1.9
7月	732	△ 2.7	194	20.1	107.6	2.1	106.2	1.4
8月	701	△ 20.6	189	△ 0.4	108.0	2.5	106.7	1.9
9月	663	△ 27.0	196	△ 7.2	107.4	1.9	106.7	1.8
10月	645	△ 12.0	146	△ 9.9	108.1	2.1	107.3	2.2
11月	634	△ 0.6	118	22.6	108.6	2.8	107.7	2.5
12月	524	△ 27.2	75	0.0	109.1	3.1	107.9	2.6
25年1月	718	△ 5.2	67	27.3	109.0	2.7	107.6	2.1
2月	575	14.8	60	△ 67.0	109.1	2.8	108.0	2.5
3月	889	40.0	163	△ 19.1	109.6	3.2	108.5	2.9
4月	455	△ 25.4	397	47.7	110.1	3.1	108.8	2.6
5月	669	△ 0.7	151	37.0	110.3	3.1	108.8	2.7
6月	470	△ 30.4	245	△ 9.5	110.1	2.7	108.9	2.8
7月	659	△ 10.0	274	41.5	110.6	2.8	109.4	3.1
8月	—	—	192	1.7	110.6	2.4	109.8	2.9
資料出所	国土交通省		東日本建設業保証機構		総務省統計局			